

特集

“いつかはママに…”を応援する プレコンセプションケア

企画者のことば

岩瀬 明

将来の妊娠および生まれてくる児の健康に備える視点で、生殖年齢にある男女の健康を考えるプレコンセプションヘルスの概念が提唱されています。若年男女の健康管理という点においては、妊娠の計画の有無にかかわらず、その意義が認識されつつあります。良好なプレコンセプションヘルスを実現するために必要なプレコンセプションケアのカバーする範囲は広く、ライフスタイル・生活習慣の改善、良好なメンタルヘルスの維持、罹患している疾患の管理・治療薬剤の検討、がん検診(子宮癌・乳癌)、感染症の予防・ワクチン接種などになります。不妊症や不育症に対する治療、前回の妊娠・分娩経過を考慮して次回妊娠に備えることもプレコンセプションケアと関連しており、今後その重要性はますます高まってくるものと考えられます。

本特集では、総論としてプレコンセプション

ヘルス/プレコンセプションケアを俯瞰し、特に妊娠中の母体および生まれてくる児への影響、女性のキャリアとのかかわりという視点からもエキスパートの先生がたに解説をいただくこととしました。妊娠・分娩に影響を及ぼす病態・疾患については代表的なものを取り上げ、卵巣機能、着床、流産などに関連し、いまだ明らかにされていない影響とその対策について、基礎研究の成果を含め第一線の先生がたに執筆いただいています。妊孕性および不妊症、婦人科がんとの関連については現状と啓発的な意義を、また実際のプレコンセプションケア外来での取り組みについてもエキスパートの先生がたにご解説いただいています。本特集が、プレコンセプションヘルス/プレコンセプションケアに関する啓発と診療の充実に貢献できることを期待しています。